

アメリカ有給ホテル・プログラム

米国ホテル・インターンをコーディネートします。知名度が高いラグジュアリーホテルで働けるのが最大の特徴！



リッツカールトン/フォーシーズンズ/ハイアット/マリオットなど世界トップブランド・ホテルで働く、アメリカ発のラグジュアリー・ホテル・プログラムを 2006 年秋初めて日本に紹介。世界各地のホテルに 1,500 名を毎年アメリカ国内のホテルに送り出す、10 年以上の歴史あるホテル・プログラムで、4つ星・5つ星の高級ホテル限定が魅力です。

アメリカ有給ホテル・プログラムが提供する他とは違う2大メリットとは・・・

- ★ キャリア飛躍の成果を引き出すには、最高レベルのホテルで働く事がベストです。そこには最高のサービスが何であるかを知り尽くしたゲストが滞在しており、そのゲストを満足させるホテル・スキルを修得すれば、ホテルとして完結する道が歩めます。そのため、提携するのは大手ホテル・グループ(リッツカールトン・ハイアット・マリオット・フォーシーズンズなど)や全米各都市の著名独立系ホテルで、全て四つ星・五つ星評価のホテルだけです。これだけのホテルを常時アレンジできるのが、アメリカ有給ホテル・プログラムの他とは違う一つ目の大きなメリットです。
- ★ 二つ目の大きなメリットは、インターンシップでは無理?と思われる高いレベルの収入です。提携するホテルは、アメリカ人スタッフと同等レベルの給料をインターンに支給するのを常としており、平均的なチップと併せて最低保証を US\$1,400 としていながら、実勢は US\$1,600~US\$2,000 の収入があるようです。US\$1,200 程あれば毎月の生活はできますし、フリーミールなどの特典があることも多く、数百ドルの貯金が毎月可能です。また、料飲勤務ではチップも収入が大きいことから、基本給を加えると悠に US\$2,200 を超える収入がありえます。アメリカで経験を積みながら貯金まで出来る・・・ これは大きなメリットです。
 - ◆ ホテル・サーチから始まり、所属部署や給料などの条件交渉・受入れホテル決定・ビザ申請に必要なすべての書類作成・そしてビザ・スポンサー手配までを行い、ホテル業界のクオリティ指標とされるアメリカ高級ラグジュアリー・ホテルの卓越したホテル・スキル修得の機会を提供します。
 - ◆ アメリカ一流ホテル勤務経験と正社員に順ずる待遇が得られるこのプログラムで、「将来の自分を肯定的に思い描ける」機会を、ぜひ手に入れて下さい。

プログラムの特色

1. **研修先はアメリカを代表する4つ星・5つ星ホテルに限定。インターン受入契約先ホテル；**
 - * ハイアット・グループ (パークハイアット、グランドハイアット、ハイアットリージェンシー)
 - * スターウッド・グループ (セントレジス、ウェスティン、シェラトン)
 - * マリオット・グループ (リッツカールトン、マリオット)
 - * アコー・グループ (ソフィテル)
 - * 独立系ラグジュアリー・ホテル
2. 宿泊部や料飲部の各セクションをローテイトし、OJTで現場業務に就く。J-1 インターンシップ・ビザ取得にあたり、インターン期間中の研修内容とスキル到達目標が詳細に記載された、アメリカ国務省指定書式の「トレーニング・プラン」が作成される。ホテル管理職が研修監督者となり、3ヶ月毎にビザ・スポンサーに研修報告書を提出する、アメリカ国務省管轄の国際交流プログラム。
3. アメリカ有給ホテルに諸外国のインターンを送り出す実績が10年以上あり、日本を含め世界13ヶ国にインターン募集拠点を持つグローバルなネットワークで、2008年には1,800名ものインターンを各ホテルに送り込んだ実績を持つ。
4. 一つのホテルに300~700名のアメリカ人スタッフが勤務する完全な英語環境。最低宿泊料が500ドル以上という高級ホテルのため、日本人客を見ることはあまりなく、英語環境で仕事に就く。そのためアメリカ人スタッフが使用する高級ホテルならではの品のある英語が修得できる。
5. なぜこれほどの給料をホテルは支給するのか? : 経営基盤がしっかりとしたこれら有力ホテルは、アメリカ人スタッフの給料に準ずる支給を常としているので、インターンに支払われる給料としては破格のものとなる。
6. なぜホテルは12ヶ月限定のインターンを受け入れるのか? : アメリカ国務省管轄の「国際文化交流プログラム」の趣旨にこれらホテルは賛同し、CSRの観点からも諸外国のインターン受入に積極的である。また、アメリカ人スタッフの国際化という視点からも毎年多くのインターンを受け入れている。

渡米までの流れ: お申込みから渡米までのプロセスと所要期間

1. **カウンセリング及び書類審査: CV(英文履歴書)を添付ファイルにてメールでお送り下さい。参加資格を審査します。**
 - * 書類審査をパス⇒電話インタビューにて英語力を診断⇒選考合格者は正式に申込み手続きを進めていきます。
 - * 申込書の提出/プログラム費用のお支払い
2. **アメリカ送付書類作成と必要書類準備 2週間**
 - * 英文履歴書/カバーレター、そしてホテルへの紹介に役立つ Intern Profile (アンケート) の英文作成と添削。
 - * アメリカ本部に提出する Application 等応募書類の準備を願います。

3. 研修先決定まで 1~4ヶ月

- * 応募書類一式がアメリカに届きますと、参加者の希望を考慮しながらホテルと受入れ交渉を始めます。
- * 至急求人案件への応募の場合、2週間程でホテルが決まることもありえますが、通常はポジション打診から入りますので、ホテル決定までに平均1~4ヶ月の期間が必要です。サーチにかなりの時間がかかるため、都市の指定は受付けておりません。

4. 研修先決定からアメリカ大使館・領事館ビザ面接まで 2~3ヶ月

- * DS-2019 発行手数料/海外旅行保険料/ビザ諸費用のお支払い。
- * ホテル決定⇒Training Plan を作成⇒完成した Training Plan にサインするとホテルとの研修契約成立となります。
- * Training Plan をベースにアメリカ国務省認定団体が DS2019(ビザスポンサー書)を発行します。

5. ビザ面接から発給まで 1週間

- * ビザ申請書類作成を代行致します。また、面接官が重要視する事柄をしっかりと英語で伝える面接練習も行ないます。
- * 無事面接が終了すると、面接官よりその場で「ビザ発給仮決定書」が手渡され、通常1週間以内にビザが発給されます。

6. 渡航手配:航空券/海外旅行傷害保険(米国本部指定)/住居手配(提携ハウジング会社が手配します)

よくある質問一覧

Q. どのようなホテルを紹介してくれるのでしょうか?

A. 契約を結んでいるリッツカールトン、フォーシーズンズ、ハイアット、マリオット、ソフィテル、オムニなどのホテル・グループや独立系ホテルを紹介致します。すべて4つ星・5つ星ホテル限定で、ロケーションはアメリカの主要都市や高級リゾート地です。

Q. 日本人を採用するという事は、日本人ゲスト担当ということですか?

A. いいえ。特に日本人ゲスト担当という意味合いはありません。ホテルはスタッフ間にインターナショナルな雰囲気を作り出したいと考えており、日本以外ではヨーロッパからのインターンも採用しています。スタッフ 500 名のなかで、日本人は1人だけという環境も珍しくありません。「ホテル勤務が半年経ったけど、日本人ゲストをまだ一人も見えていない」とコメントを送ってくるインターンがいる位です。

Q. 英語のレベルはどのくらい必要ですか?

A. 仕事で英語を使いますので、日常会話~ビジネス会話のコミュニケーション力が必要になります。
ただ、英語のレベルに不安がある場合は、最初 Bell, Housekeeping 等に配属され、英語に慣れてきたらフロントデスクに移動するなどのアレンジをします。ホテルとの電話面接の結果を踏まえ、アメリカ本部担当者がホテルと配属先について交渉を致します。
また、語学研修をご希望の方には手続き料無料で、語学学校を手配します。

Q. フロントデスクを希望していますが、ベルの経験しかありません。参加できますか?

A. はい、参加できます。J-1 インターンシップでは様々なポジションをローテイトする方法もあります。例えばベル経験者ならベルから入り、ホテルの仕事と英語に慣れてきたらフロントへ配属するなどが可能です。もちろん希望ポジションの経験があればそれに越したことはありませんが、参加資格を満たしているなら経験がなくてもホテルがチャレンジさせてくれます。

Q. 希望するホテルや都市を指定できますか?

A. エリアのリクエストは可能ですが、事前の保証はできません。料理人以外のポジションはリゾート地のホテルが多く、ニューヨークやロサンゼルス等の都市部のホテルはインターン募集が多くはないので、基本的にエリアはオープンにお考え下さい。

Q. 住居はどのようにして探すのですか?

A. ホテルによって対応が異なります。リゾート地のホテルでは従業員宿舎に入居できるケースがありますが、都市部のホテルでは基本的にアパート滞在となります。

Q. 収入はどの位ありますか?

A. 最低\$1,400 をギャランティしますが、実勢は US\$1,600~US\$2,000 の収入があります。また、料飲部配属の場合はチップ収入多く、月に US\$2,200 を超える収入がある人も多々います。さらにフリーミールなどの特典が付けば、益々生活しやすくなります。

J-1 ホテル・インターン(在學生・新卒者対象)

在學生や新卒者が参加できるインターンシップ・プログラムで、将来ホテル就職を目指す方には最適で、在学中にラグジュアリー・ホテルとして評価の高いアメリカのホテルで勤務経験が積めます。ホテル大好きには格好の国際的なホテリエ育成プログラムです!

参加資格

- ① 専門学校ホテル科もしくは短大・大学・大学院ホテルコースや観光学部在學生(アメリカの学校は除く)。
- ② 上記課程で卒業後12ヶ月以内の新卒者。
- ③ ホテル・レストラン経験者は有利です。
- ④ 接客レベルの英会話ができる方。

J-1 ホテル・トレーニー(社会人対象)

今あるホテル勤務経験を国際化の波に対応できるレベルに上げる!ラグジュアリー・ホテルとして評価の高いアメリカ高級ホテルでグローバル・スタンダードを身に付け、ホテル業界でさらなる活躍ができる人材を目指します!

参加資格

- ① 20~35歳の男女(36歳以上は要相談)。
 - ② 短大・大学にて Hotel/Hospitality/Tourism の専攻または Business/Management 系の専攻で Hospitality/Tourism 系の科目を履修した方+ホテル・レストランでの職歴1年以上。
 - ③ 上記以外の専攻の方+ホテル・レストランでの職歴5年以上(卒業後)。
 - ④ 接客レベルの英会話ができる方。
- ※現職・前職がホスピタリティ業界以外の方は、ホテル・レストランでの最後の職歴より3年以内に応募すること。

J-1 ホテル料理人インターン(コック・パティシエ・パン職人対象)

アメリカ4つ星・5つ星ホテルの調理部門で、あなたの料理人としての能力と経験を発揮しよう!

アメリカの有名ホテルでは著名シェフの料理を売り物に、レストラン集客に力を入れています。メニューにはシェフの独創的かつ斬新な料理が溢れ、また人気を博しているアメリカンキュイジーンの本質に触れる事も出来ます。著名シェフの傍で最高級の料理法を学び、世界に通ずる調理人としての腕をあげる絶好の機会が、このアメリカ・ホテル料理人インターンシップです。世界各国の味に触れる機会が

多く、優れた技術と繊細な持ち、向上心の強い日本人料理人やパティシエはどのホテルからも引っ張りだこです。

参加資格	① 22～35歳の男女。 ② 専門学校で2年間の料理コースを卒業した方は、レストラン業界での調理経験1年以上(卒業後の経歴)。 ③ 上記以外の方はレストラン業界での調理経験5年以上(卒業後の経歴)。 ④ 問題なくコミュニケーションが取れるレベルの英語力がある方(目安:TOEIC600以上)。
研修先 配属先 研修期間 開始時期 待遇	全米主要都市やリゾート地の四つ星・五つ星ホテルやダイニング・レストラン *フロント *料飲部門 *スパ *シェフ *コック *パティシエ *パン職人 *営業・マーケティング 12ヶ月間 ※一部マネージメント・ポジションで18ヶ月間の受入れ可能) 随時 インターン開始希望時期の12ヶ月前から申込み受付。 収入:給料+チップ収入月 US\$1,400～ 勤務中の食事 *ホテルによっては住居の手配(格安の家賃)します。

プログラム費用	プログラム費用	DS-2019 費用&US 健康保険料	合計
12ヶ月間:米本土	¥340,000	¥340,000	¥680,000
12ヶ月間:グアム・サイパン	¥250,000	¥330,000	¥580,000
18ヶ月間:米本土(マネージメント・ポジションのみ)	¥380,000	¥420,000	¥800,000

書類審査と英語力診断:無料 プログラム費用に含まれるもの <ul style="list-style-type: none"> * 履歴書等各種応募書類作成 * 研修先ホテル・リサーチ開始 * ホテルとの受入条件交渉 * トレーニング・プラン作成 * ホテルとの英語面接準備 * その他サポート業務 DS-2019 発行手数料に含まれるもの <ul style="list-style-type: none"> * ビザ・スポンサー承諾書類作成 * 期間中のビザ・スポンサー料 * 期間中の海外旅行保険料 	費用に含まれないもの <ul style="list-style-type: none"> * 航空券代: 格安航空券を手配します。 * ビザ取得費用 ¥68,000 ビザ: 代行料・SEVIS Fee/ビザ申請料 ビザ代行: 申請書作成/支払い代行/面接予約 * 住居諸費用: 手配料/申請料/保証金 プログラム費用見積もり(12ヶ月間コース、出発前のお支払い) プログラム費用: ¥340,000 DS2019 費用&US 健康保険料: ¥340,000 ビザ申請料+ビザ代行手数料: ¥68,000 航空券代(片道): ¥100,000 合計: ¥848,000
---	--

ホテル・マネージメント研修&OPT 対象有給ホテル就労プログラム

アメリカのコミュニティ・カレッジや大学には、質の高いホテル・マネージメント教育のプログラムを提供している学校が多いです。ホテルでの職歴がない方、本場アメリカでホテル・マネージメントを学びたい方は、コミュニティ・カレッジでホテル・マネージメントのサーティフィケートまたは準学士を取得し、卒業後に OPT(Optional Practical Training) を活用し、ホテルで就労するプラン(最長12ヶ月間)をお勧めします。Certificate や Degree をアメリカで取得した外国人には、1年間の労働許可がアメリカ政府から与えられますが、この機会は世界ビジネスを牽引するアメリカ企業で働ける絶好のものです。

ただ、勤務先を探すのは自己責任とされ、「自分が気に入る会社や仕事が見つからない/どのように会社を探せばいいかわからない/労働許可期間が始まってしまっていて焦っている/だけど折角の機会だから会社選びに妥協はしたくない」という方たちに、申込期間限定の「OPT 支援特別プログラム」をご案内します。

アメリカで Hotel Management や Hospitality Management and Tourism 等で卒業し、労働許可書(EAD)をお持ちの方に、アメリカを代表する4つ星・5つ星ホテルで働けるチャンスを提供します。大手高級ホテル・チェーンや独立系ラグジュアリー・ホテルと外国人スタッフ受入の優先的契約をしていますので、ホテル紹介はぜひお任せ下さい。今までに全米800以上のホテルに外国人スタッフを送り込んだ実績があり、蓄積した膨大なホテルデータを活用して、勤務経験が高く評価される高級ラグジュアリー・ホテルを紹介しています。

研修プラン	高卒:(英語研修)⇒ホテル・マネージメント準学士(2年間)⇒OPT ホテル・インターン 12ヶ月間 短大卒・大卒:(英語研修)⇒ホテル・マネージメント・サーティフィケート(1年間)⇒OPT ホテル・インターン 12ヶ月間 > 準学士1年目⇒OPT ホテル・インターン 12ヶ月間⇒準学士2年目のプランも可能です。 > OPTは2セメスター(3クォーター)を連続すると取得できるため、秋学期(9月～12月)+春学期(1月～5月)の実質9ヶ月間の研修修了後にOPTでのホテル・インターンに参加することができます。
--------------	---

参加条件	① アメリカで Hotel Management/Hospitality Management & Tourism で卒業した方 ② 就労許可書(I-797)と EAD カードをお持ちの方
-------------	---

マネージメント研修手続き料	OPT ホテル就労先手配料(米本土)	OPT ホテル就労先手配料(グアム・サイパン)
¥80,000	¥280,000	¥160,000

費用に含まれるもの <ul style="list-style-type: none"> * 語学研修手続き(条件付入学)/カレッジ入学手続き * 履歴書等各種応募書類作成 * 滞在先手配サポート * 雇用証明書 	費用に含まれないもの <ul style="list-style-type: none"> * 授業料・教材費・その他諸費用及び研修中の生活費 * F-1ビザ取得費用/OPT 就労許可申請料 * 就労地への移動交通費 * 海外旅行保険料
---	---

お薦めカレッジ	都市名	コース	学費(別途教材費)	滞在
Highline Community College	シアトル WA	C A	\$8,695.	ホームステイ/学生寮
Orange Coast College	コスタメサ CA	C A	\$7,330.	ホームステイ/アパート
Cypress College	サイプレス CA	C A	\$8,280.	ホームステイ/アパート
Community College of Southern Nevada	ラスベガス NV	C A	\$8,740.	ホームステイ/アパート

C: Certificate(1年間・実質9ヶ月間) A: Associate Degree(2年間・実質18ヶ月間) ※その他数多くのカレッジをご紹介します。

サイパン&グアム有給ホテル・インターン

プログラムの 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 日本人観光客の多いサイパンやグアムのホテルでは日本人のインターン生を積極的に採用しています！ ◆ アメリカ本土のホテルと比べ、英語力条件が緩やかですが、職場は英語環境なので、実践で英語を習得！ ◆ 基本的に全てのポジションをローテーションで体験できるので、ホテル業務を効率的に習得できます！ ◆ 基本的に部屋・食事・手当が支給されるので、参加費用のみで充分生活できます！ 		
参加条件	① 年齢:20歳~37歳 ② J-1ビザの参加条件に基づき、学歴(アメリカは不可)と職歴の条件は次のいずれか。 <ul style="list-style-type: none"> ● J-1 インターン:ホテル・ホスピタリティ専攻(短大・大学)の在学学生。 ● J-1 インターン:ホテル・ホスピタリティ専攻(短大・大学)の新卒生(卒業後1年以内の渡航)。 ● J-1 トレーニー:ホテル・ホスピタリティ専攻で卒業後にホテル・レストランで1年以上の職歴のある方。 ● J-1 トレーニー:高卒または短大・大学で他の専攻の場合は、ホテル・レストランで5年以上の職歴のある方。 * 英語での接客サービスに問題のない英語力があり、過去1年以内にホテル・レストランでの職歴がある方。 * 専門学校卒及び他の専攻でもホスピタリティ/ツーリズム/マネジメント系科目を履修している方はご相談ください。		
参加時期	シーズンにより各受入先の採用計画が異なりますが、希望する時期に合わせて受入先をリクルートします。		
参加期間	基本的には12ヶ月間		
研修先一例	HILTON Guam Resort & Spa タモン湾を臨みプライベートビーチを持つグアム屈指の最高級リゾート・ホテル。 Pacific Islands Club Saipan & Guam 大小様々なプール等の施設が充実、マリンスポーツを楽しみたい方向け。 LOTTE Hotel Guam 海辺の一等地に立地し、タモン地区の美しい景観を望む素晴らしい5つ星ホテルです。 Saipan World Resort ミクロネシア最大級の巨大レジャープール(Wave Jungle)が人気。 FIESTA Resort & Spa Saipan ショー、スパ、アクティビティが充実したサイパン屈指の高級リゾート・ホテル。 HYATT Regency Guam ハイアット・グループがグアムで展開する高級リゾート・ホテル。		
ポジション	*フロント *ゲスト・サービス *レストラン *アクティビティ&スポーツ部門 *セールス&マーケティング ※ホテル内のいろんなポジションをローテーションで経験することができます。		
就労条件 待遇	週40時間勤務/シフト制(深夜・早朝勤務有り)/ローテーション制 > 宿泊:従業員宿舎(基本的にシェア) > 食事:毎日3食支給 > 手当:月 US\$600.00~US\$800.00(ホテルにより異なる) +チップ		
プログラム費用	DS-2019 費用&US健康保険料	J-1ビザ取得費用	合計
¥250,000	¥330,000	¥68,000	¥648,000
OPT インターンシップ手配料		¥160,000	
費用に含まれるもの			
① 書類選考/各種応募書類作成/ホテルのリサーチ/ホテルとの面接の設定 ② トレーニング・プランの作成 ③ DS-2019 費用:ビザ・スポンサー承諾書類作成/期間中のビザ・スポンサー料 ④ US 医療・傷害保険料(12ヶ月間) ⑤ 渡航前サポート/出発前オリエンテーション ⑥ ビザ取得費用:代行料(申請書類作成/ビザ諸費用支払い/面接予約)・ビザ申請料・SEVIS			
費用に含まれないもの			
① 航空券代:ホテルによっては支給してくれるところもあります。 ② OPT インターンシップ:海外旅行保険料及び就労許可申請料			
手続きの 流れ	1. 書類選考:①日本語履歴書 ②日本語職務経歴書 ③英文履歴書 ④証明写真 ⑤パスポートのコピー 2. 書類選考合格⇒ホテルとのインタビューを設定します(電話・スカイプ・日本事務所)。 3. 合格⇒インターン契約書にサイン⇒トレーニング・プランの作成 4. DS-2019 発行⇒J-1ビザ面接⇒約1週間で受領します。 5. 渡航手配:航空券及び海外旅行傷害保険⇒出発前オリエンテーション 6. 出発⇒サイパン・グアム空港にて出迎え⇒宿舎にチェックイン 7. ビザ・スポンサーへのチェックイン 8. ホテルでのオリエンテーション⇒インターン開始		



サイパン ホテル・インターン体験談(以前のビザ制度で参加された方です)

タイトル	「初めて実家を長期で離れた行き先は、サイパン。島は小さいが得るものは大きい！」
参加者	40歳 女性(ホテル経験者)
インターン先	Aqua Resort Club

■出発前に不安でも、開き直る気持ちに助けられました。

日本から、また実家からも長期で離れたことがない私が、不安を抱えつつも「サイパンに行こう」と決意しました。もちろん不安は大きく、英語が通じるかどうかが最大の関心事でした。英語には自信がなく、コミュニケーションが取れるかどうか心配だったのです。もうひとつの心配事は、生活面です。全く生活のイメージができないため、何を準備すればよいのか迷いました。自分でもサイパンの情報を調べてみましたが、観光情報ばかりで、日本と異なる島国でどのような生活になるのか、想像できませんでした。

インターンシップの面談時に、現地ホテル「アクアリゾートクラブサイパン」の担当者から「日本のようにあちこちにコンビニがある訳でもなく、医療機関はあっても医療が進んでいる訳ではない」と聞きました。ホテルからのアドバイスは、インターン生に最初に大きな期待をさせないためではないかなと、今となっては心遣いがかかります。医療については、持病がないため何とかなると思いましたが、食べ物や生活の不便さについての不安は、渡航前にしばらく続きました。

しかし、ある時に「行けば何とかなる！」と思って開き直り、日本の食材を準備することで、出発前に気持ちが落ち着きました。ふりかけ、アルファ米などのドライフード(災害時用の食料品)、しょうゆ、インスタント味噌汁、などなど…。

サイパンに着くと、最初は日本との違いに少しカルチャーショックがありましたが、サイパンのお店で売られている食材を見ていると、不自由なことはなく通常の生活がすぐに始まりました。「杞憂」ということでしょうか、「案ずるより産むが易し」でしょうか。

■様々な国からの来島者により、各国の事情を知るにも良い機会でした。

カリキュラム上は、通常ホテル内の業務をバランス良く研修することになります。私はサイパン渡航前に日本でホテルの仕事の経験があったため、ホテル側と個別に相談しF&B(飲食関係)の実習を行わず、フロント業務とハウスキーピングを集中して研修とさせていただきました。就業研修では、日本での経験を活かし、楽しめたと思います。

サイパンで感じたこととして、就業のスタイルに日本と大きな違いがあります。サイパンは契約社会だな、と感じました。それは、何に対しても書面やマニュアルがあり、業務に対して少しの曖昧さも残っておらず、すべて文章化されているからです。移民の国「アメリカ」の一旦を垣間見た感じです。その都度該当の書面にサインし、それらの内容を守ることが求められます。日本人の感覚とは違って、良いこと悪いことを何でも文書化してサインします。その文面に書かれた内容を守れない場合は、段階を経て処分されてしまうんですね。インターン生は、就業研修ですのであまり厳しく対応しなかったのですが、スタッフには通常の処分があるようです。

日本の感覚では、例えば「これを終わらせておけば後々楽になるから、今のうちに終わらせてしまおう…」と思う業務があっても、サイパンでは「もう時間だから…」と途中で終わらせないといけない、という考えになります。業務の効率を考えると、やや疑問です。業務を文書化されサインすると、業務範囲が明確でやりやすいというメリットもありますが、「ついでにやっしまおう」という日本の効率的な考えが受け入れられない社会に思えます。このような仕事のスタイルは国民性の違いでしょうが、なかなか慣れない習慣でした。帰国する頃になって、ようやくその感覚に慣れてきましたが…。

他のインターン生やローカルの従業員の方と一緒に仕事をすることは、楽しかったです。フィリピン、ロシア、韓国の方もいらっしゃって、それぞれの国のことがよく分かりました。フィリピンの方が職場では最も多く、自国の話をしてもらいました。ロシアは、同じ大国でもアメリカと考え方が異なるようでしたし、個人的に旅行に行ったことのある韓国には、ますます興味が湧きました。寮で韓国人とルームシェアをしていたため、より深く韓国について知ることができました。様々な国の方と交流が持てるのは、移民の国、サイパンの魅力のひとつだと思います。

■サイパン島での生活は、何とかなるものですね。

島では、生活様式や考え方が異なります。また、日本出発前に「交通の便が悪い」と聞いていました。実際に、お店の品揃え(種類)、お店自体の数、その他すべてにおいて便利な日本と比較すると見劣りします。しかし、モノがなくても基本的な生活はできます。サイパンは日本のように「アクセク」したり気負ったりせず、逆にゆったり時間が流れています。そのような生活を日本で経験することは少ないと思います。精神的にもリラックスできるサイパンの生活スタイルは、今でも気に入っています。

夜遊びについては、サイパンではその種類も場所もお店の数も限られています。その点で退屈を感じる方もいらっしゃると思います。しかし、マリンスポーツなど、日本では日常体験できない遊びが多く、楽しむ視点を変えてみるととても良い経験ができるんですね。

ホテル・インターンシップでは、寮や職場の仲間と一緒に出かけたり、食事に行ったりと、仲良く暮らすことができました。一般に「海外では日本人同士がよく固まって行動する」などと言われますが、サイパンではそのような雰囲気はありませんでした。

日本にいらっしゃって海外に興味がある方でしたら、ホテル・インターンシップを通じて日本とは異なるサイパンの良さを経験し、世界を広げる良いチャンスを得られると思います。

■帰国後、現在は進路を選定中です。

日本およびサイパンで経験したホテルでの接客業を、今後も続けていきたいと思っています。次にどのホテルで仕事をしようかと検討しているところ、サイパンのホテルからもお誘いを受けました。様々なホテルで条件や契約内容を比較検討して、次のステップアップに繋がりたいと考えているところです。

■最後に。

今回、ホテル・インターンシップに参加したことは、自分にとって明らかにプラスになりました。特に良い経験をさせてもらったこと、良い人間関係に恵まれたことは幸運かもしれませんが、それらはサイパン特有の良さかもしれません。機会があれば、またサイパンに戻りたいと思います。

出発前、ホテル・インターンシップでサイパンに行くことを母に伝えると、「何を言ってもきかないから…。行ってきなさい。」との言葉。このように口では厳しく心では優しく送り出してくれたのは、一番大切な母でした。その母に1年間日本から見守ってもらい、感謝の気持ちで一杯です。母には、日本から頻りに荷物を送ってもらいました。インターン生の中で、荷物を受け取る回数が一番多かったのではないかと思います。また、インターンシップで日本を離れることについては、「自分よりも母の方が心配だったのでは」と今になって分かります。

渡航手配に関しては、急な渡航であったにも関わらず丁寧にご指導下さったエージェンツの方の細かなフォローに、この場をお借りして御礼申し上げます。サイパンでは、ホテル・アクアリゾートクラブの方々や仕事の仲間に、大変お世話になりました。

またサイパン島を訪れ、皆様にお会いしたいと思います。

Y.Y.



他のインターン生との懇親会風景

タイトル	「サイパンでのホテル・インターンシップで、大事なことを沢山学びました。」
性別	東京観光専門学校ホテル科 男性
インターン先	Aqua Resort Club

■どの国に行く場合も同じ不安があると、自分で割り切りました。
 東京観光専門学校(東京都渋谷区)に在学中にリゾートの4ツ星以上のホテルという条件で働きたいとの想いから、サイパンのアクアリゾートクラブでの研修の機会に恵まれ、ホテル・インターンシップへの参加が実現しました。
 インターン生としてサイパンに渡航する前は、現地の生の情報が少ない上、自分にとって実感が湧かないことから、不安だけが大きくなりました。日本人以外のスタッフと一緒に働くことも、不安材料のひとつでした。また、英語でコミュニケーションが取れるかどうかという不安も、大きかったように思います。しかし、この気持ちは、どの国に行く場合も同じだと割り切って、インターンシップに臨むことにしました。

■ホテルでの就業研修では、多くのことを経験できます。
 ホテルでの研修内容は、フロント・オフィス、飲食(F&B)、ハウス・キーピングが主な業務です。私の場合は、その上に車を運転してお客様の送迎まで経験させていただきました。
 ホテルのマーケティング業務については、深い知識や経験が必要であり、インターン生ではカリキュラムに組み込まれていませんでした。研修の舞台であるアクアリゾートクラブは、ツアーのお客様だけでなく、長期で何週間も宿泊なさるお客様もいらっしゃいます。リゾートホテルでは、温か味や快適さをお客様が求めています。アクアリゾートクラブは、お客様との繋がりが非常に強く、アットホームな雰囲気のあるホテルです。日本のシティホテル特有の「固さ」がありません。私達スタッフにとっては、お客様のために何が出来るかを考え、行動できるホテルです。
 例えばバーベキューなどの夕食時に、世間話でお客様と親しくなる機会もあります。親しくなったお客様から、「なぜこのホテルで働いているのか?」という個人的な質問を受けることもありました。お客様に興味を持って接したことが、逆にお客様がスタッフである私に興味を持っていただけるようになりました。本当の接客の醍醐味が味わえる楽しいひと時だったと、今でも思い出します。
 ホテルでは、日本からのお客様とのコミュニケーションが大事であると感じました。日本人に対するサービスについては、現地のスタッフの方よりも自分の方がうまく対応できたと自負しています。

■北マリアナ大学キャンパスで英語研修を行います。
 元々サイパンに到着するまでは、英語が嫌でした。TOEIC のスコアが、たったの235でしたし、英語を学ぶ必要性を頭では十分に理解していましたが、「嫌い」という気持ちのほうが強かったです。インターンシップは英語を学ぶことが中心の海外留学と違い、就業研修がメインです。そのためなのか、北マリアナ大学で英語を学ぶチャンスをいただいても、英語の勉強にあまり力を入れませんでした。
 しかし、学んだ英語を職場で使うため、ヒアリングには自信がついたことは、自分にとって英語力が向上したという実感があり、大きな収穫です。サイパンは、英語を勉強するというよりも「これが英語なんだ」と英語の特徴や本質を知ることができる場所だな、と感じています。
 英語の「勉強」というよりも、「英語とは何か」を知るには、日本から近いサイパンは最適な場所と考えます。帰国後に時々、知人等から「えっ? サイパン?」と訊かれることもあります。あまりサイパンがよく知られていないことに驚きであり、少しショックです。サイパンは、もっとその良さをアピールしてもよいのではないのでしょうか?
 北マリアナ大学キャンパスでの英語研修クラスは、各ホテルのインターン生が中心のため、韓国人や日本人が殆どです。そのため、英語研修だけでなく、北マリアナ大学キャンパス内で現地の大学生と交流する時間が欲しかったです。
 自分の英語力については、文法や語彙力が不足していると思っています。もっと勉強が必要だと、痛感しているところです。
 英語力の不足により就業研修中に英語が通じない時は、ボディランゲージも使いました。北マリアナ大学での英語研修を通じて、英語の必要性を実感することができました。
 今では、サイパン渡航前と違って英語にすごく興味があります。英語を好きになったことも、自分にとって大きなプラス面です。現在通っている東京観光専門学校のホテル科では英語が必須なので、自分から興味を持った英語に今後も取り組んでいきたいと思っています。

■「帰国後の進路は、旅館業」
 東京観光専門学校を卒業後は、岐阜県高山市、奥飛騨温泉郷にある実家の旅館「飛騨牛の宿」で家族と共に働くことを決めました。実家の旅館でのお客様に対しても、リゾートホテルを利用するお客様と同様にご要望を的確に捉えて、接客したいと考えます。インターンシップでの経験が通用するかを試してみたいですし、本質は通用すると思います。
 今回のホテル・インターンシップを通じて得た経験を、実家の旅館でフルに活かしたいと考えています。そういう面でも、恵まれていると感謝しています。

■自分が変わったと思ったこと
 サイパンでのインターンシップを通じて、仕事に対する考え方、お客様へのサービスを職業にすること、お客様をいかにもてなし喜んでいただくか、その大切さや情熱などを身に付けました。
 もう1点は、国による考えの違いを学べたことです。ホテルでは、多国籍のスタッフ同士が共にチームワークで働いています。
 日本の固い考え方との違いも知ることができ、国毎に、「こういう風に考えているのか」と分かることができました。国による“考え方の癖”の違いのようなものでしょうか。これに分かるかどうかで、スタッフとのコミュニケーションの仕方が大きく変わります。
 サイパンでのインターンシップを通じて、サイパンが好きになりましたし、様々な国のことを知ることもできました。日本からもっと多くの方がインターンシップのチャンスを掴むことを望んでいます。
 今回のホテル・インターンシップを受講するにあたり、実家の家族の協力なくては実現しませんでした。また、ご理解をいただいた東京観光専門学校の高橋功一先生、アクアリゾートクラブの皆様へ御礼申し上げます。また、サイパンではお陰様で色々な方と知り合いになり、お世話になりました。現地旅行会社の担当者様などサイパンで沢山の方と仲良くなり、快適に生活ができました。あらためてお礼を申し上げます。